

(526) 9Cr-Mo-V-Nb系耐熱鋼の長時間クリープ破断強度と長時間加熱後韌性におよぼす合金元素の影響

東京大学工学部

○朝倉健太郎、藤田利夫
渡辺久(現新日鐵)・池田清和

1. 緒言

9Cr-Mo-V-Nb系耐熱鋼におけるクリープ破断強度とシャルピー衝撃特性におよぼすCr, Mo, V, Nb, Cの単独および複合添加、さらに韌性向上のためIr, La+Ce添加、溶解法(真空溶解)、フェライト量の影響などを調べてきた。しかし、それらは1000~3000h程度のデータがほとんどであった。

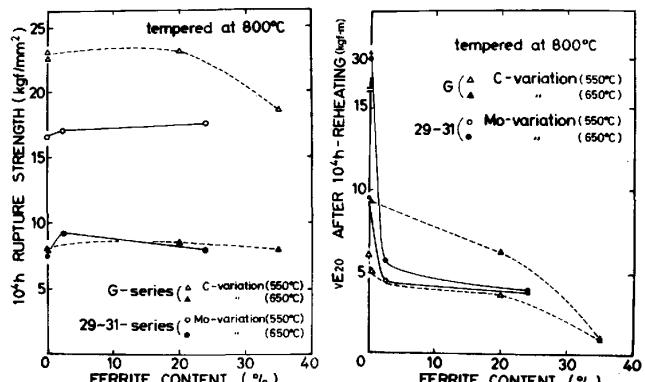
本報では1万時間以上の長時間クリープ破断データと、1~2万時間加熱後のシャルピー衝撃特性を加えるとともに、詳細な微視組織観察を行い、クリープ破断強度およびシャルピー衝撃特性におよぼす合金元素とフェライト量の影響を調べ、また韌性の脆化原因についても検討した。

2. 実験方法

Table 1. Chemical composition of steels used(wt%) and ferrite content(%)

	C	Si	Mn	P	S	Cr	Mo	V	Nb	La+Ce	T.N	Ferrite(%)
G 1	0.02	0.17	0.56	0.015	0.012	9.01	1.81	0.112	0.054	-	0.0332	35
G 2	0.05	0.16	0.55	0.015	0.012	9.27	1.82	0.111	0.055	-	0.0349	20
G 3	0.09	0.18	0.48	0.013	0.011	9.10	1.81	0.100	0.050	-	0.0200	0
G 4	0.14	0.18	0.52	0.015	0.012	9.00	1.80	0.090	0.050	-	0.0228	0
2 9	0.05	0.17	0.63	0.010	0.005	9.17	0.96	0.150	0.050	-	0.0276	0
3 0	0.06	0.16	0.55	0.008	0.005	9.06	1.28	0.150	0.040	-	0.0301	2
3 1	0.05	0.21	0.64	0.011	0.007	9.18	1.95	0.150	0.050	-	0.0296	24
696	0.11	0.25	0.85	0.010	0.007	8.52	1.50	0.170	0.050	0.028	/	0
892	0.05	0.52	0.56	0.009	0.007	10.00	2.00	0.100	0.050	-	0.0306	45

主な供試材の化学成分をTable 1に示す。Gシリーズ鋼はC量変化、29~31鋼はMo量変化、696鋼はLa+Ceの影響を調べるために各50kg大気溶解した。熱処理条件はクリープ破断試片、シ

Fig. 1 Charpy absorbed energy at 20°C after 10⁴ hrs reheat.

3. 実験結果

1) 10^4 hのクリープ破断強度はFig. 1に示すように、550°Cではフェライト量の多いG1鋼が強度低下を示すが、強度水準は29~31鋼に匹敵する。650°Cではフェライト量に影響されず、Gシリーズ鋼および29~31鋼はともに同等の強度を示す。

2) 10^4 h再加熱後のシャルピー吸収エネルギーはFig. 2に示すように、フェライト量に大きく依存する。熱間加工性ならびに溶接性を考慮した場合、20~25%程度のフェライト量は韌性にさほど悪影響をもたらさない。

3) 微視組織観察の結果、シャルピー吸収エネルギーの低い供試材は、Photo. 1に示すようなフェライト粒内に板状炭化物(M₆C型など)が認められ、さらにマルテンサイト・ラス界面およびフェライト-フェライト、フェライト-マルテンサイト粒界に連續的に析出が認められる。

Photo. 1 Electron micrograph of G1-steel reheated at 550°C for 10⁴ hrs after tempered at 700°C.